



本書は中国の歴史的状況から現在の発展状況までを分析し、中国共产党がその発展においてどのような役割を果たしたのかを全面的かつ詳細に分析している。

出版 日本僑報社
発行 2016年12月23日
定価 3800円+税

中国は世界第1位の貨物輸出国、第2位の貨物輸入国、第2位のサービス貿易国、第2位の事請負国、最大の観光客出発国、最大の対外留学生輸出国、および120カ国・地域の最大の貿易相手国となっている。中でも米国は最大の受益者だ。中米双方は互いに第1位の貿易パートナーで、中国は米国にとって第1位のサービス貿易輸出国（注1）、第1位の外国人留学生出身国、第1位の国債購入者、さらに最も重要な直接投資国であり、米国に最も重要な直接投資国である。16年の中国の対米直接投資は4

風力発電、太陽光発電の設備規模と原子力発電の建設中の規模はいずれも世界トップである。非化石エネルギー発電の設備の割合は35%に達し、新規非化石エネルギー発電の設備規模は世界の40%前後を占め、非化石エネルギーがエネルギー消費に占める割合が10年の8.3%から16年の13・3%に増えた。中国が起こしたグリーンエネルギー革命のけん引により、世界がグリーンエネルギー革命時代に突入しつつある。

が現代化する道筋を切り開き、世界において発展の加速を願いながら自身の独立性の保持をも願う国と民族に対し、成長、貧困削減、革新、環境、安定、開放といった一連の新しい選択を提供した。これは中国による世界に対する最大の「発展理論の貢献」である。

中国の特色ある社会主義が新時代に入つたことは、近代以来、長期にわたり、苦難を味わつた中華民族が立ち上がり、豊かになり、強くなるという偉大な飛躍を迎えたことを意味している。早くも1956年、毛沢東主席は、21世紀になれば中国は「人類に對し」比較的大きな貢

安全保障・全面的経済法執行およびインター ネットセキュリティー、社会・人文という四つのハイレベル対話が行われた。昨年11月初め、中米首脳が北京で再度会談することが世界の注目を集めた。中米は互いに最大のステークホルダーであり、中米協力は世界の利益である。逆に、中米が衝突すれば世界の災いになる。

5年来、中国は歴史上の従来の大國とは異なる、中国の特色ある強国之道を確立してきました。中国は開発途上国として、

胡鞍鋼

清华大学国情研究院院長、清华大学公共管理学院教授、博士課程指導教授。1988年に中国科学院の工学博士の学位を取得し、91年から92年までエール大学経済学部で博士研究員として在籍。2004年にロシア科学アカデミー東洋学研究所から経済学博士の称号を得る。中国の国情研究に関連する著作が日本語を含めて多言語に翻訳・出版されている。

今日のように世界に対しても重要な貢献を果たしたことがないのだ。私の結論はこうだ。中国が良ければ、世界がより良くなる。中国が革新すれば、世界に利益がある。中国が強大になれば、世界にはもつと利益がある。

強大な中国が世界に貢献する



中国的発展の成果は世界の注目を集めている。「鍛え磨き前進してきた5年間」大型成果展示で「復興号」の列車の模型を見ている来場者

A photograph showing a high-speed train at a station platform. Two women are in the foreground, looking towards the train. The station has a large, ornate arched ceiling with a blue and white mural of a landscape.

入り、これは中国の発展の新たな歴史的位置付けである、と習近平国家主席が明確に提起したことは、世界の各方面から大いに注目された。

中国が強国になる時代、世界の舞台の中
心に入る時代、さらには人類のためによ
り大きな貢献を果たす時代である。

2・5%を下回り、深刻な衰退類型に帰することになる。

貧困削減できる。1人当たりの支出が1日1・9^ドル以下という、世界銀行が提起した国際貧困ラインの基準によると、1981年から2013年まで、中国の貧困人口は8億8400万人から2517万人へと8億5900万人減少し、貧困発生率が88・3%から1・85%へと86・45ポイント下がった。同時期の途上国の貧困発生率は1981年の42・2%から2013年の10・7%へと下がり、そのうち、世界の貧困削減における中国の寄与率が4分の3に達した。

中国が革新するほど、世界が革新する。中国の研究開発への投資が世界の総量に占める比重は、10年の11・7%から15年の17・1%へと上がり、中国は世界第2位の研究開発投資国となっている。中国の住民の特許出願が世界の総量に占める比重は、10年の25・2%から15年の46・8%へと高まり、中国は数年連続で世界第1位の特許出願国となっている。16年、中国の発明特許授権数が一躍世界トップに立ち、国内の有効発明特許保有件数が110万3000件になり、中国は米国と日本に次いで百万件を突破した国となつた。中国が提出した「特許協力条約（PCT）」に基づく国際出願は4万3000件で、世界第3位に躍進し、世界の総出願数の18・5%を占め

胡鞍鋼

清华大学国情研究院院長、清华大学公共管理学院教授、博士課程指導教授。1988年に中国科学院の工学博士の学位を取得し、91年から92年までエール大学経済学部で博士研究員として在籍。2004年にロシア科学アカデミー東洋学研究所から経済学博士の称号を得る。中国の国情研究に関連する著作が日本語を含めて多言語に翻訳・出版されている。

の相手国になつてゐる。2016年、米国とのサービス貿易は1000億ドルの大台を突破し、そのうち中国側の輸入超過が523億ドルに達した。